



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ しばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所】 Tel.23-4121



新年度を迎え、新たなステージが始まりました。しばやしスクールサポートボランティアセンター(KSSVC)と小林市キャリア教育支援センターの広報紙「てなむ」(西諸弁で「一緒に」)をお届けします。

市内の小中学校では、学校と地域・事業所・各種団体などが一緒になって子どもたちの学びや成長を支える取組を行っています。それらは、参加した大人にとっての「学び」や「生きがい」にもなり、ひいては地域の活性化に繋がるものです。「先生方からアイデアがたくさん出て、行事の見直しが進み、新たな活動も生まれました」と、ある教頭先生から聞きました。コロナが小康状態になったこともあり、各学校ともに活動実績が伸び、ボランティアの人数も増えています。

今年度も、さまざまな活動取材させていただきます。よろしくお願ひします。写真は「地域の困りごと助け隊」(須木中)による清掃活動

令和5年度、市内の小中学校で活動したボランティアと外部指導者は、延べ26,319名。内訳は、学習支援活動4,427名、部活動指導1,047名、環境整備1,852名、登下校安全指導17,900名、学校行事1,093名でした。(R5年4月～R6年3月)

～昨年度の活動より～ (旧学年)

西小林中 立志のつどい・記念講演



2年生



選んだ漢字を手に、20名が「立志の誓い」を述べました。その後は、発表を聞いていた1年生とグループを作り、「社会人に求められる能力」をテーマにフリートーク。「信頼」や「継続」、「コミュニケーション能力」など、活発に意見を述べ合う姿を、保護者が近くで見守っていました。

講演は大角恭代さん(野尻町)。東京でのユニクロ勤務(店長など)を経てUターン。野菜ソムリエプロとして、食育や商品開発など、様々な活動をしています。「『好き』を大切に～自分らしき・個性を大切に生きよう」の演題で、東京での生活と、今の仕事を選んだ理由に触れながら、個性を大切にしたい生き方について、生徒たちにアドバイスをしてくださいました。

永久津小と永久津保育園の交流活動



入学を控えた4人の園児が小学校を訪問。1年生7人と交流を深めました。互いに名前と好きなものを言って、お楽しみ会が始まりました。最初は学校紹介クイズ。「たしごんをならうのはさんすう、こくごのどっち?」など、1年生が交代で出す問題に、園児たちは元気よく手を挙げていました。その後はペアになったのミニ探検。1年生が説明しながら、児童玄関や保健室を見て回り、最後はじゃんけんゲームで盛り上がりしました。

【園児の感想】すごいいっぱいできていて、たのしかったです。

【1年生の感想】ばらぐみさんといっしょに、またたのしくあそびたいです。

紙屋小 地域に花を植える活動

5年生



学校から紙屋大橋を渡り、坂の上の花壇までゴミ拾いをしながら移動。紙屋一徳まちづくり協議会の皆さんと、金魚草とノースポール、ナデシコの苗を植えました。毎年続けている活動で、住民の皆さんにも喜ばれています。7月には中学生が植栽を行う予定です。

活動の終わりに、協議会の木下会長から、美化活動へのお礼と、「ゴミ拾いをしなくていいような地域にしていきたいましよう」との呼びかけがありました。



裏に続きます。

東方中 地域の高齢者に花を贈る活動



以前は、地域の一人暮らしの高齢者宅を訪問し、直接お渡ししていましたが、コロナ禍の影響で、ここ数年は、区長さんや民生委員の皆さんなど、地域のボランティアの方々にお願いしています。高齢者の皆さんを元気にしたいという思いを込めて、80数軒のお宅に、手紙を添えてパンジーを届けました。

【原田校長先生】生徒たちの活動が、地域と学校の橋渡しになればと考えています。【生徒代表】心を込めて育てました。よろしくお願いします。【地域ボランティア】皆さんの優しさを必ず伝えます。

(生徒の手紙より) 私たち東方中生は花いっぱい活動で花を育てています。高齢者の皆さんに、ぜひ花を楽しんでもらいたいと思います。春ですが朝から寒いですね。体調は大丈夫でしょうか。ちなみに、この花の花言葉は「もの思い」や「誠実」です。これからも、お元気に過ごしてください。

三松小 6年生へのおはなし会



【プログラム】◆ 読み聞かせ「たいせつなこと」

- ◆ ペーパーサート「しりとりが大好きな王様」
- ◆ 劇「現代版 三枚のお札」 ◆ 教科書クイズ
- ◆ 偉人クイズ ◆ プレゼント

保護者の読み聞かせサークル「わたぐも絵本の会」による「卒業おめでとう！小学校最後のおはなし会」です。いろいろなプログラムを10数名の保護者が交替で演じ、やまんばや校長先生が登場する「三枚のお札」では大きな笑いが起き、クイズでは、たくさんの手が挙がって盛り上がりました。

「わたぐも絵本の会」は、朝の読み聞かせに加え、全校児童が対象のクリスマスおはなし会と6年生へのおはなし会を毎年行っています。

【感想とお礼の言葉より】◆ 楽しいお話をありがとうございました。これからも絵本などをたくさん読みたいと思います。◆ おもしろい絵本や劇をありがとうございました。◆ 私はしりとりが大好きな王様と三枚のお札の話が好きでした。プレゼントもありがとうございました。◆ 6年間、本だけでなくクイズなど、いろいろな工夫もあって楽しかったです。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション 第13弾



大工原忠相さん：NEC勤務。2022年から1年間、「大人の地域みらい留学」で西諸に滞在。飯野高校で地域の課題解決のプログラムに携わりました。西諸の温泉が大好きな東京人です。

「VUCA(ブーカ)」と「シンギュラリティ」の話題から始まりました。VUCAは、将来の予測が困難なため、既存の価値観やビジネスモデルだけでは対応できないこと。シンギュラリティ(技術的特異点)は、技術進化が進んだ先に待っている、これまでの社会とは常識が一変する転換点。2045年頃と予想されています。

最初に、量子通信技術やスマートシティ技術など、今後10年から20年の間に出現する未来技術約20件についての説明があり、続けて、シンギュラリティの時代に向けて我々大人が捨てるべき矜持(きょうじ: 誇り・プライド)は? というテーマでお話をしていただきました。

グループトークでは「シンギュラリティの時代に向けた人材教育」と「そんな時代の個人や地域の課題」について考えました。具体的にどんな時代になるのかを想像するのは難しく、意見をまとめるににくいテーマでしたが、未来社会に対する参加者の意識は高まったと思います。

まとめで、大工原さんは、人材育成について、ご自身が考える3つのポイントを示されました。

- ◇ 保護者は自己の再生産をやめる。(自分の経験だけで子どもを育てることをやめる)
- ◇ 学校は地域の教育機関としての役割、教育者としての誇りを確認する。(時代が変わっても学校がなくなることはない)
- ◇ 自分の地域の未来を、大人が真剣に考える。

最後に、「未来社会に向けて大人が矜持を捨て、何かを一つずつ変えていく姿や、新しいことにチャレンジする姿を子どもたちに見せることが大切ではないでしょうか」と、締めくくりました。

★ 地域学校協働活動とキャリア教育に関するご相談は2つのセンターまで。お待ちしております。



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所】 Tel.23-4121

小林市教育委員会では「0歳から100歳までの小林教育」をスローガンに「生涯を通して学び合い育ち合う」まちづくりをめざしています。そのキーワードが、上のマークに書かれた「自立」「感謝」「貢献」の3つの言葉です。

「自立」できたら、支えてくれた人たちに「感謝」して、自分ができることで社会に「貢献」。そして、このサイクルを繰り返すことで、みんなの笑顔あふれる小林市にしていきたいと思いますという思いが込められています。

同時に、自分にない知識や技能、経験をもった方々との交流を通して、「こんな人になりたい」とか「学びたい」と思えるようになってほしいとの願いもあります。地域学校協働活動でのさまざまな出会いから、子どもたちは自立のためのきっかけを掴んでいくでしょうし、大人にとっても得るものがたくさんあることでしょう。

幸ヶ丘小 1年生を迎える会



今年の1年生は1人(集合写真前列中央)。小学校に早く馴染んでもらえるよう、上級生が進行し、先生方も加わってゲームで交流を深めました。

メッセージの書かれたメダルのプレゼントや「じゃんけん列車」のゲームで楽しく過ごし、最後に全員が笑顔で記念写真を撮りました。

交通安全教室

運動場の状態が悪い時は屋内で実施しました。

7校の交通安全教室を参観しました。当然ですが、学校が変われば様子も変わります。それぞれの学校の特色を感じる機会にもなりました。



西小林小

上学年は、集団登校で使う横断旗を使って横断歩道を渡る練習もしました。

【お礼の言葉】 ◆ 車をちゃんと見てわたることが大切だとわかりました。 ◆ 教えてもらったことをずっと守ります。(2年生) ◆ ヘルメットが大事だということがよくわかりました。教えてもらったことを続けていきたいです。(4年生)



栗須小

自転車での横断歩道の渡り方や危険運転の実演(傘さし運転・二人乗りなど)、ブレーキと制動距離についても学びました。

【お礼の言葉】 ◆ これからも右左を確認して横断歩道を渡ります。(2年生) ◆ ブレーキのことが心に残りました。学校の周りは車が多いので、習ったことを守って気を付けたいです。(4年生)



野尻小

「車は急に止まれない」実験

上学年は、見通しの悪い交差点の通行を全員が体験。時速30kmで走る車の制動距離の実験もありました。

【お礼の言葉】 ◆ 合言葉の「ブタハシャベル」を思い出して自転車点検をします。

「ブレーキ」「タイヤ」「ハンドル」「シャ」タイ(車体:高さ・ライト・反射材など)「ベル」



細野中

【主な内容】DVD(自転車の加害事故)、自転車の交通ルールの確認、自転車点検の方法、見通しの悪い交差点の通行など。

DVDでは、ながら運転やスピードの出しすぎ、一時停止違反などの事例が紹介されました。



裏に続きます。

小林中と三松中は、細野中とほぼ同じ内容です。

小林中



【お礼の言葉】 自転車が被害者にも加害者にもなることがよくわかりました。青であってもしっかり確認して、小林中全体で交通安全に気をつけていきます。

三松中



【お礼の言葉】 危険運転やながら運転はしません。ヘルメットをかぶり、点検をして乗りたいと思います。

東方中



【主な内容】 ジャイロ効果(車輪を回転させて傾けると、元に戻そうとする力が働きます)、自転車の交通ルール、ヘルメットと事故の話、直進とカーブを曲がるコツ、安定する姿勢、急ブレーキのかけ方 など

指導してくださったのは…

- (栗須小) 梅田学園ドライビングスクール
- (東方中) 押領司先生：美術講師・県自転車競技連盟理事長
- (その他の学校) 小林警察署・交通安全協会

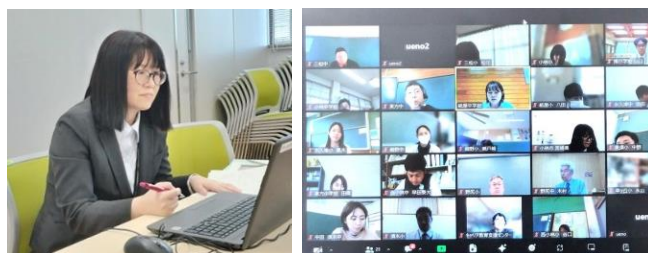
霧島岑神社子どもイベント



こどもの日を前に開催されました。主催は霧島岑神社と細野まちづくり協議会。

イベントの内容は、白玉団子作り体験・射的・輪投げ・スーパーボールすくい・駄菓子屋さん・あくまき作り体験・お菓子釣りなど。ゴールデンウィーク後半の初日とあって、境内はたくさんの家族連れでにぎわっていました。いろいろな屋台を回りながら子どもの頃を思い出していました。

第1回 小林市キャリア教育担当者会



市内の小中学校 21 校と市教育委員会、キャリア教育支援センター、こばやしスクールサポートボランティアセンターが出席したオンライン会議です。進行は瀬川先生（市教委）。

キャリア教育に関する市の方針説明と2つのセンターの役割と活用方法の説明の後、9つの中学校区に分かれて協議を行いました。

説明と協議より…

- ◆ なぜ、今、キャリア教育が必要なのでしょう？
- ① 人口減少・少子高齢化
国内の生産を中心となって支える生産年齢人口(15～65歳)の減少
- ② グローバル化
2067年には人口の約1割が外国人に。
- ③ 他業種間連携
自動車メーカーとIT や電気業界など。
- ④ 変化が激しい時代・人生 100 年時代
終身雇用からマルチステージの時代。人生のその時期にあった転職が進む時代へ。
- ◆ これからの時代を生きる子どもたちに求められる力は？
主体性(考える力、伝え合う力、つなげる力)
- ◆ そのためにも…
こすもす科や総合的な学習の時間の充実、キャリア教育の視点を生かした授業の充実(社会的・職業的自立のための基盤となる能力や態度を念頭に置きながら、子どもたちの成長や発達を促進しようとする見方)
- ◆ 具体的には…
課題意識をもたせる、対話的な学びの充実、外部講師の活用など
- ◆ 協議で聞かれた意見(キーワード)より
○ 大人とのコミュニケーションに慣れる ○ 働くことのイメージや喜びが感じられる活動 ○ 継続できる無理のない活動 ○ 小中連携と情報の共有
○ コロナで減少した体験活動の復活 ○ 地域の魅力や住民の思いを知る ○ 子どもたちが「自分で調べてみたい、考えてみたい」と思うような働きかけ

平成19年(2007年)に生まれた子どもが100歳まで生きる確率は50%というデータがあります。(カリフォルニア大学とドイツのマックス・プランク研究所)
当然、働く期間が長くなり、仕事についての考え方も変わっていくことでしょう。予測困難な未来に備えた取組が、今、求められています。

【お願い】 訪問できないこともありますので、活動の写真を、学校間共有→ KSSVC → 「2024投稿 Box」に入れていただくと助かります。



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所】 Tel.23-4121

新しいことができるようになった時。手伝ってくれた時。努力を感じた時。

子どもたちをほめるタイミングです。これまでの様々な活動の中で、ほめられて笑顔になる子どもたちをたくさん見てきました。

親や先生にほめられて育った子は、そうでない子に比べて自己肯定感が高いと言われます。

子どもの頃の体験が育む力とその成果に関する調査研究(国立青少年教育振興機構)によると

- [A] ほめられたことが多い、叱られたことも多い
- [B] " " が多い、" " が少ない
- [C] " " が少ない、" " が多い
- [D] " " が少ない、" " も少ない

自己肯定感が強い大人はAとBで多く、CとDで少ないという結果が出ています。叱られた経験の多少はあっても、ほめられた経験が多いと自己肯定感は高くなるというのは興味深いですね。

また、「手伝いの頻度や生活習慣の身に付き具合」と「自己肯定感」の間に正の相関があることもわかっています。上手なほめ方は…

「こうするともっと良くなるよ」とか、「ここが特に良かったよ」と、さらなる向上を期待したり具体的にほめたりすることだそうです。

南小 体育の出前授業

5・6年生



後転のポイントは手のつき方です。

写真は5年生の授業

小林中の振替休日の日、新体操部の3年生1人と2年生4人、顧問の長崎先生が南小を訪問。5・6年生にマット運動を指導しました。

この授業は南校区まちづくり協議会、吉村さんの協力で実現したものです。小学生は5つのグループに分

かれ、中学生に支えてもらいながら、前転・後転・開脚前転に挑戦しました。繰り返し練習して、上手にできるようになると全員が笑顔に…。中学生も教えることを通して多くのことを学びました。部員による後方宙返りなどの模範演技もあり、思い出に残る授業になりました。

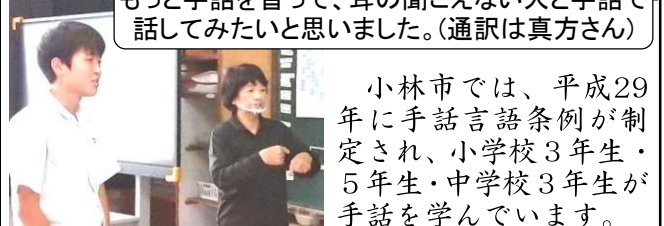
西小林中 手話の学習

3年生



徳永さん

もっと手話を習って、耳の聞こえない人と手話で話してみたいと思いました。(通訳は真方さん)



小林市では、平成29年に手話言語条例が制定され、小学校3年生・5年生・中学校3年生が手話を学んでいます。

この日の講師は徳永さんと真方さん(小林市手話通訳者派遣協会)。聞こえない人の生活や伝える方法についてのお話と補聴器の体験の後、あいさつなどの簡単な手話と指文字を練習して、一人ずつ手話で自己紹介をしました。

子どもたちの手話の学習が、手話言語条例の理念である「手話が言語であることを認識し、手話への理解の促進及び手話の普及を図り、手話でコミュニケーションを図りやすい環境を構築するものとする」という一文に繋がることを願っています。

細野小 あいさつ運動

6年生



月に1度、細野中生と一緒に going to school. この日は中学校の行事の関係で、6年生だけで実施。「あいさつ運動」と書かれたのぼり旗を持って、登校してくる児童と、通る車一台一台に

頭を下げ、大きな声で挨拶をしていました。「あいさつ運動」は多くの学校で行われており、保護者が参加している学校もあります。

訪問する学校で、子どもたちから気持ちの良い挨拶が返ってきます。中には、立ち止まって「語先後礼」の挨拶をする子もいて感心します。

ビジネスマナーでは「語先後礼」が基本。丁寧な挨拶から生まれる人間関係もたくさんありますね。

裏に続きます。

東方小 読み聞かせ



思わず身を乗り出す4年生



大谷選手の手形に合わせる6年生

「よんみろ会」の皆さんが、月に1度、年齢に応じた絵本を選び、全学年で読んでくださいます。子どもたちはこの日をとても楽しみにしており、目を輝かせて聞き入っている姿が、どの学級でも見られました。

読み聞かせには、子どもの心が安定する、想像力が育まれる、言語能力が高まる、感情が豊かになる、集中力が上がるなどの効果があると言われています。

小林市ではすべての小中学校でボランティアによる読み聞かせが行われており、子どもたちの健やかな成長に寄与しています。

さつまいもの苗植え

紙屋小 1・2年生



マルチ張り



1年生6名、2年生7名が校内の「わくわく農園」に紅はるかと黄金千貫の苗を植えました。協力はJA青年部・甘藷農家・保護者の皆さん。

紙屋小の苗植えでは、毎年、2年生が始めの会と終わりの会の進行をします。

【始めの会】お話をきちんと聞いてしっかり植えましょう。

【終わりの会での感想】教えてもらって上手にできました。どのくらい大きくなるか楽しみです。

東方中 2年生



説明は本田先生(技術科)



いも植えの大切さを知り、父たちの手伝いをしたいと思いました。

東方研修館の向かいにある畑を地域の方に提供していただき、今年度初めてさつまいも(紅はるか)の苗を植えました。地主さんと区長さんも加わり、和やかな雰囲気の中、竹で穴をあけたマルチに手際よく苗を挿していき、30分ほどで終わりました。秋の収穫が楽しみです。

西小林小 畦づくり

5年生



よろしくお願いします

5年生31名が田植えを前に「畦づくり」を体験。水漏れを防ぐ田んぼの仕組や米作りの仕事を知るのが目的です。JA青年部とPTA環境整備部の皆さんに教えてもらいながら、スコップを使い、時には足で踏み固めて、1時間ほどで形を整えました。ちなみに、現在ではトラクターの後部に付けた機械を使います。(写真右下)

【始めの会でのあいさつ】田おこしや草刈りをしていただいたと、先生から聞きました。畦づくりは初めてなので、教えていただきながら頑張ります。

【お礼の言葉】米作りには細かな作業がたくさんあることが分かりました。来月の田植えもよろしくお願いします。





地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所】 Tel.23-4121

野尻小



栗須小



学校支援ボランティアとの顔合わせの集会です。お迎えしたのは、学習支援・登校の見守り・読み聞かせ・郷土芸能・農業体験などでお世話になっている団体の代表の方々。お一人ずつ挨拶をしていただいた後、児童の代表が感謝の気持ちを伝えました。

【野尻小】いつも私たちのためにありがとうございます。棒踊りを一生懸命頑張りますので、ご指導をよろしくお願いいたします。

【栗須小】いつも見守りや読み聞かせをしていただき、ありがとうございます。私たちは皆さんたちのおかげで楽しく安全に過ごせています。

この後、両校ともボランティア会議を行い、今後の活動について意見交換を行いました。

小林小 二原遺跡の見学

6年生



50年前、ごぼうの収穫作業中に見つかりました。

発掘調査した16基のうち2基が保存され、公園として整備されています。3クラスが交替で訪れ、小林ガイドボランティア協会の皆さんに案内していただきました。

古墳時代の埋葬の話と鉄の剣や矢じり、熱帯産のイモガイの腕輪の写真に子どもたちは興味津々。熱心にメモを取り、約1,500年前の小林で暮らしていた人々の生活に思いを馳せていました。二原遺跡は、毎月第3日曜日(午前9:30～11:30)に公開されています。

細野中 図書館オリエンテーション

1年生



- 【主な内容】 ◆ 公立図書館と学校図書館
◆ 日本十進分類法・背ラベルの見方・本の探し方
◆ 細野中の図書室の工夫 ◆ 上手な利用の仕方
◆ 著作権 ◆ 本の紹介

市立図書館の川野さんによる図書館と本の授業です。2クラスで行いました。紙の媒体が減り続けている状況を踏まえながら、川野さんは本の魅力について分かりやすくお話してくださり、子どもたちは興味深く聞き入っていました。

【お礼の言葉】あまり本は読まないのですが、お話を聞いて、もっと本のことを知りたくなりました。

須木小 浄水場見学

3・4年生



中央地区簡易水道浄水場

説明は奥平さん・八重尾さん(上下水道課)

近くの井戸から水を汲み上げ、配水池を經由して、須木の中心部に水を供給する施設です。小林市の水道、水をきれいにする仕組、職員の仕事などについてお話していただきました。

子どもたちは熱心に説明を聞き、たくさん質問をし、その後、山の上の配水池にも行きました。

【お礼の言葉】 ◆ いろいろなことを教えていただき、ありがとうございました。

◆ 予想と違っていたこともあったけど、たくさん知ることができて良かったです。

紙屋中 薬物乱用防止・情報モラル教室



講師は小林警察署刑事課・生活安全課の皆さん

裏に続きます。

全校生徒を対象に1時間で2つの教室を実施しました。主な内容は…

【前半】◆ DVD 視聴(薬物の恐怖)
◆ 薬物の種類 ◆ 検挙状況 ◆ 身体への影響
◆ 社会に与える影響

【後半】◆ 情報モラルとは ◆ サイバー犯罪の現状 ◆ フィッシング詐欺被害について ◆ SNS やネットとの付き合い方 ◆ 危険から身を守るために

「薬物もサイバー犯罪も遠い世界の話ではない」ことを、たくさんの画像やデータを用いてお話していただきました。子どもたちは、具体的な事例を交えた説明を聞きながら、終始真剣な表情で聞き入っていました。

幸ヶ丘小 プール開き



幸ヶ丘小では、10時間ほどの水泳の授業を総合運動公園の市営プールで行っています。この日は待ちに待ったプール開き。10名の子どもたちは歓声を上げながら、潜って「宝物」を探すゲームなどで水と親しんでいました。

南小 ホタルの学習

3年生



松永さん(商工観光課)

西さん(ホタル調査員) 30年以上、出の山のホタルの調査と保護活動をされています。

【内容】◆ ホタルの種類 ◆ ホタルの一生 ◆ オスとメスの違い ◆ ホタルの調査と環境を守る取組 ◆ 出の山公園での調査

葉っぱの陰で見つけました。

教室では松永さんのお話。「火が垂(た)れる」から「火垂る」になったという説や英語ではファイア・フライと言うなどのクイズもありました。

その後バスで出の山公園に。西さんからホタルの生態についての説明があり、生息地を見て回りました。今年は例年になく多く、一番多い日で5千頭のホタルが飛んでいたそうです。この後、出の山湧水も見学し、ホタルと水を通して小林の自然の豊かさも学びました。

商工観光課では市内の小学校で「ホタルの授業」を行っています。



西小林小 田植え

5・6年生



5年生が畦を作った田んぼです。協力はJAこばやし青年部とPTA役員の皆さん。5・6年生が一つのグループで活動しました。植えるのに夢中で泥だらけになる子もいて、互いの姿を見ては笑顔が絶えない田植えになりました。

東方小・こすもす支援学校 清掃交流



仲良く床を拭きました。

両校は定期的に交流活動を行っており、清掃交流もその一つです。今回は東方小の4年生がこすもす支援学校の1～4年生の校舎で、一緒に清掃をしました。人数が少ないため、掃除が行き届かない所もあり、手伝ってくれた4年生に、支援学校の先生方から「助かりました。ありがとう」の声がたくさんかけられていました。

細野小 灯ろうづくり



霧島岑神社の六月燈に向けて細野まちづくり協議会が呼びかけ、たくさんの絵が寄せられました。この日は骨組に絵を貼る作業。昼休み、子どもたちは自分や家族の作品を持って集まり、下級生は協議会の皆さんと6年生に手伝ってもらいながら、次々と貼っていきました。六月灯は7月13日(土)の17時から20時30分。灯ろうは神社の参道に当日まで飾られています。【作品の提供】細野小・細野中・細野保育園・認定こども園日章・ふれあいの里



地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ しばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所】 Tel.23-4121

警察庁によると、昨年夏期(7~8月)の全国の水難事故は ◆ 発生件数453件 ◆ 水難者 568人。うち死者・行方不明者236人 ◆ このうち中学生以下は、発生件数49件。水難者106人。うち死者・行方不明者16人(数値は速報値)となっています。

長い夏休み、保護者や先生方の一番の願いは、子どもたちの安全な生活。休み前、「命を守る」さまざまな指導が各学校で行われたことと思います。その中のひとつを紹介します。

南小 海上安全教室(着衣水泳) 6年生



宮崎海上保安部(日南市油津)の6名の職員から、「浮く」技術を学びました。

全員でプールを回って流れを作り、急に反対向きになると体が激しく押し流され、子どもたちは流れの強さにびっくりしていました。

浮く練習では、何も持たずに浮いた後、ボールやペットボトル、空気の入ったビニール袋などを使ってみました。ライフジャケットの使い方や、溺れている人へはロープや浮力のあるものを投げるなど、対処法の説明もあり、子どもたちは楽しみながら命を守る方法を学んでいました。

※ 海上安全教室を実施する場合は、宮崎海上保安部へ直接依頼してください。

須木中 浜ノ瀬ダム見学 1年生



説明は宇都さん(西諸土地改良区)

学校から北西に車で25分ほどの所にある灌漑目的のダムです。管理事務所でダムの種類と役割(防災や水利、発電など)について学んだ後、ダム内部の階段を57m下りて最下部へ。気温14度のひんやりした空気の中で、ダムの管理や点検についての話を聞きました。地震計も設置しており、震度4以上の地震が起きると、深夜でも駆けつけ、安全確認をするという話に、生徒たちはびっくりしていました。

この後、下流の発電施設も見学しました。

三松小 史跡めぐり 6年生



案内はガイドボランティア協会の皆さん

関ヶ原の戦いの供養碑や飯田家五輪塔、開拓記念碑のある田中の鼻など、校区内の5か所の史跡を見て回りました。

関ヶ原の戦いで西軍についた佐土原藩はとりつぶしになり、一部の藩士と家族が堤地区に移住しました。農民になっても武士としての誇りを忘れなかった人々の生き方が、後の「三松魂」に繋がっているとされています。

見学の後は、教室で、ガイドボランティアの皆さんが作った解説動画を視聴し、さらに詳しく学びました。

須木小 灯ろうづくり



須木小には年に数回、「みんなで〇〇をする日」があり、児童が交替で企画・運営をします。今回は3・4年生が担当して灯ろうを作りました。

1~6年生が4つのグループに分かれて作業開始。教室には題材選びに困らないよう3・4年生が準備した「絵を描くヒント」が掲示され、子どもたちは、それらを参考に須木の特色や夏に関する絵を思い思いに描いていました。

最後は、全員が集まって発表会。3・4年生が進行し、絵を披露し、感想を述べました。

この後、灯ろうの型に貼り付け、須木の花火大会で、会場までの道を明るく照らします。



幸ヶ丘小 魚のつかみ取り大会



裏に続きます。



この日は日曜参観。午前中は授業、午後からPTA主催で行われました。プールにはニジマス60匹とコイが数匹。子どもたちは歓声と水しぶきを上げて魚を追いかけていました。魚のつかみ取り大会は、毎年、夏休み前に行われます。

小林小 租税教室

6年生



説明役の大人と共に、チームのテーマに沿って施設を配置しました。



小林税務署と小林法人会青年部・女性部の皆さんによる授業です。前半は税のない社会を描いたDVDの視聴・税金の種類と役割・税金クイズ。後半は、地図の上に建物のシールを貼る「まちづくりワークショップ」。チームごとにテーマを決め、600億ZENの予算で、税金の有効な使い方を考え、施設を整備しました。

授業の終わりには、「みんなが楽しく暮らしやすい街」「にぎやかな町」「観光地になる町」「高齢者や子どもに優しい町」など、子どもたちの願いが込められた街がたくさん出来上がりました。

永久津小 九州ゲンゼ工場見学

3年生



3年生6名の社会科見学です。説明は総務課の富永さん。工場の成立ちやストックの作り方を学んだ後、製造工程に沿って工場内を見て回りました。子どもたちは、編んだり縫い合わせたり包装したりするさまざまな機械に、「すごい!」や「速い!」を連発。驚いたり感心したりしながら、説明を聞いていました。

【見学後の質問の時間より】◆ ゲンゼでストックを作っているのは小林の工場だけ。1日12万足作っています。◆ 働いているのは約300人。ベトナムやインドネシアの技能実習生もいます。

◆ 機械の数は660台。その内、編立の機械が500台。柄が編める機械は毎年更新しています。

◆ 染色には、たくさんのきれいな水が必要です。それで、水がきれいな小林に工場を作りました。

紙屋小 城攻め踊りの練習

4~6年生



指導は紙屋城攻め踊り保存会(手塚会長)のメンバー5名。「30年前に私も教わりました」という方もいて、伝統の重さを改めて感じました。初参加の4年生は太鼓の付け方とバチの持ち方から始め、徐々に、手の動きや足の運びを学びました。

「時間をたくさんいただいたので今日で仕上げます」と手塚さん。運動会での披露に向けて、子どもたちは熱心に取り組んでいました。

西諸にはさまざまな郷土芸能が伝わっていますが後継者の育成が難しいという声をよく聞きます。子どもたちのはつらつとした動きを目で追いつながら、伝統を伝えていく学校の役割について考えていました。

西小林中「小林未来予想図」スタートアップ会議



3年生



3年生は4つのチームで探究活動を行っています。今回、市役所の9つの課から12名の職員を迎え、進捗状況と今後の進め方について発表しました。

その後は意見交換会。小林市の課題と解決策のアイデアについてグループで話し合いました。職員からは施策の説明や質問への回答もあり、生徒たちは今後の活動に役立つアイデアをたくさんもらったようでした。今後、最終の発表会に向けて、さらに探究活動を続けます。

【4つの探求チーム】◆ 健幸のまちづくり推進 ◆ 市PR・観光・経済の活性化推進 ◆ 農畜産業活性化の推進 ◆ 子育て支援・教育・福祉の推進

【出席】企画政策課・地方創生課・商工観光課・農業振興課・畜産課・福祉課・こども課・学校教育課・長寿介護課の皆さん

こすもす科のふるさと学習では、学年が上がるにつれて、調べたことの発表から課題解決の提言に向かう流れになっています。その次の段階はアイデアを実現する取組でしょうか?

修学旅行での宣伝活動や地域の行事への参画など、子どもたちの活動に注目しています。



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ しばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所】 Tel.23-4121

東日本大震災や能登半島地震で、小学生が避難生活に役立つ新聞を作ったり、中学生が避難所の運営を手伝ったという話を聞きました。活動内容によっては、子どもたちも、十分、支援の輪に加わり、力を発揮できることでしょう。

8月8日、野尻中の3年生が避難所運営訓練を行いました。内容は…(数字は写真の番号)

- ◆ 防災講話「避難所で中学生ができること」
- ◆ ロープワーク(生活に役立つ結び方)①
- ◆ 新聞紙のスリッパづくり② ◆放水体験③
- ◆ ドローン操作体験 ◆ 段ボール寝床づくり④
- ◆ 無水カレー作り など

当日の夕方、日向灘を震源とする大きな地震が起きました。防災の話や聞き訓練を見学して、災害への備えについて改めて考えていただけに大きな衝撃を受けました。

今後、学校が避難所となり、子どもたちが何らかの役割を担うこともあるでしょう。南海トラフ巨大地震への注意喚起がなされている今、学校と地域が連携して対策を講じておくことが必要だと思います。



【協力】市役所危機管理課・野尻地区消防団・社会福祉協議会・SVC(災害ボランティアコーディネートセンター)・西諸県広域消防・3年生保護者・PTA 役員 等

紙屋中 スマホ・ネット安全教室

自分のリスクを考えてみよう

- ① 長時間利用
- ② 高額課金
- ③ チャットで悪口を書かれる
- ④ 歩きスマホ
- ⑤ 知らない人との出会い



NTTドコモのオンライン授業です。主な内容は、①リスクの考え方を学ぶ、②自分と周りのリスクの違いに気づく、③リスクへの対応を考える。

最初に、講師の佐藤さんから、「リスク(危険)は、起こりやすさ×被害の大きさ」とか「リスクを考える時は、リスクの発見→見積り→対応の段階を踏みます」との説明がありました。

ワークシートを使った活動では、「自分に起きそう」「被害が大きそう」「広告があやしそう」などを判断して回答。その後、そう考えた理由をグループで話し合いました。生徒たちは、質問の項目ごとにこの活動を繰り返し、自分自身のリスクについて理解を深めました。

幸ヶ丘小 木工教室

【協力】西諸地区
森林組合



全校児童が参加した放課後子ども教室の活動です。クイズを交えた木材についての話を聞いた後、森林組合が準備した材料を使い、真ん中の仕切りがスライドする本立てを作りました。

子どもたちは家族に手伝ってもらいながら、上手にくぎを打ち、組み立てていました。夏休みの木工教室は、椅子やポストなど、毎年作品を変えながら10年以上続いています。

須木中 暮らしの困りごと助け隊



社会福祉協議会須木支所と学校が連携し、夏休みと冬休みに実施しています。

この日は、ふるさとセンターで生徒22名とサポーター8名が顔を合わせた後、4班に分かれて地域の住宅を訪問。暑い中、1時間ほど庭掃除やガラス拭きなどを行いました。その後、ふるさとセンターで修了証明書を受け、全員が感想を発表して活動を振り返り

【協力】ボランティア連絡協議会
民生児童委員・友愛クラブ

裏に続きます。

水質・水中生物調査（霧島・小林探検隊）



場所はかくれ念仏洞近くの永久井野川。市内の小学生18名(7校)、中学生4名(2校)が参加しました。

最初に目を閉じて自然の音を聞き、周囲の自然と人工物を観察しました。水質と透明度を調べた後は生物の調査。網やバケツを手にとり、魚や昆虫を採取して名前や生態を調べました。子どもたちは冷たい流れの中で、暑さを忘れて熱心に活動していました。

【協力】小林市生活環境課・小林保健所
小林市子ども会育成連絡協議会



「霧島・小林探検隊」は社会教育課が行っており、学校を通じて隊員を募集しています。7月には熊本県御船町の恐竜博物館を見学しました。

職員研修（史跡めぐり）



【説明】井上さん(社会教育課)
【見学】二原遺跡公園・仲間の田の神・新田場の田の神



仲間の田の神

新規採用と9～11年目の先生11名が参加して小林の文化財について学びました。

中央公民館での井上さんによる講話「文化財を活用した学習」の後、バスで二原遺跡へ。初めて訪れた先生も多く、興味深く説明を聞き、見学していました。

市内には50近くの指定文化財があり、多くの学校が史跡や郷土芸能を授業に取り入れています。しかし、ここ数年、さまざまな事情で行われなくなった活動もあります。今後、子どもたちに地域の魅力を伝えるためにも、文化財がより身近になる取組が増えてほしいと願っています。

教育フォーラム



大工原忠相さん
日本電気株式会社
文教科学ソリューション統括部

市内の小中学校の教職員280名が出席して文化会館で行われました。

(主催:小林市教育委員会)

前半は大工原さんの講演。演題は「子どもたちに必要なVUCA(ブーカ)時代のキャリア教育とは」。VUCAとは将来の

予測が困難なため、自己の経験(既存の価値観やビジネスモデル)だけでは対応できないこと。量子通信技術など、10～20年後には実現が予測されるさまざまな未来技術を紹介した後で、そういう時代を乗り切る能力や教育内容、大人の在り方についてお話してくださいました。「前例踏襲ではなくチャレンジする大人の姿を子どもたちに見せること」という一言が心に残りました。

後半は大工原さんと4人の登壇者による小林のキャリア教育についてのトークセッション。

話題の一つが小林の地域学習「こすもす科」。子どもたちの自立や地域への愛着を念頭に構成された教科です。その価値を最大限に生かすために必要な外部講師の導入や子どもたちの自主的な活動など、指導方法を充実させる具体的な取組について語り合いました。

こばやし未来創造塾「起業家サミット」



小中高校生が約30名、大人も10数名が参加して「学びの1週間」の中で行われました。

最初は、鹿児島県始良

市の廃校を再生して私立小学校を作るプロジェクトに携わっている高校1年の女子生徒の報告。地域おこしの理念と行動力に驚かされました。

その後、市内外の起業家3名がそれぞれの会社について紹介。起業に至った経緯や事業内容についてお話してくださいました。話を聞いている子どもたちの真剣な表情から、「本当に聞きたい話を聞いている」という印象を受けました。

高校生寺子屋 テナム

主催:「絆を結ぶ物語」実行委員会



夏休み中の3日間(13:30～15:30)、小林高校生約20名が小中学生の学習を手伝いました。高校生たちはマンツーマンで、宿題の解き方を教えたり質問に答えたり…。中学生がもってきた数学の難問を、高校生が数人がかりで苦労して解いている姿も見られました。

参加した全員にとって、教えることと教えられることを通して、多くのことが学べた貴重な時間になりました。





地域学校協働活動と
キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所】 Tel.23-4121

教育フォーラム(7月31日)のアンケートで、「キャリア教育への理解が深まった」とか「今後の授業で活用したい」という肯定的評価(※)は、どちらも95パーセント以上でした。

※ とても思う+どちらかといえば思う

感想を読ませていただき、変化を感じるたくさんの方の言葉に出会いました。「挑戦する大人」「固定観念を捨てて」「職員全員で子どもたちに背中を見せる」「子どもを変える前に大人が変わる」「新しいことを受け入れるゆとりとチャレンジする気持ち」などの一言に、先生方の前向きな姿勢を感じました。

「具体的な実践が共有化できると、こすもす科の内容がさらに深まり、新たな視点での教育活動が展開できると感じました」というご意見もあり、先生方の参考になる取組を今後も紹介して、いきたいと思ひます。

さて、トークセッションの中で9年前の課題と方向性を紹介し、「変わった? 変わらない? 皆さんの学校は?」との問いかけをしました。変わらない要因を考えてみると...

- ◇ 課題や方向性が校内で共有されていない。
- ◇ 課題や方向性の内容が、毎年繰り返されている。
- ◇ 課題克服のための第一歩が踏み出せていない。

このようなことが考えられるでしょうか。

今年度も実践記録をまとめます。今ある活動にキャリア教育の視点を取り入れ、児童生徒の活躍の場を広げるなど、変化を感じる取組が生まれるよう願っています。

紙屋中 平和学習「朗読劇」



実際の出撃の写真



帽子を振っているのがお父さん

【あらすじ】 遺書が届き、息子の最後の様子が知りたいと、父親は知覧基地に向かいます。しかし、死んだと思っていた息子は、機体の故障で引き返し、明日改めて出撃することになっていました。父子は最後の夜を語り合って過ごします。翌日、息子は軍刀を父に遺して出撃。戦死しました。

終戦後、武器の供出を免れるため、父親は遺品の軍刀を真っ二つに折ります。武器ではなくなった形見の軍刀は、今も、実家で大切に保管されています。

延岡市出身の特攻隊員、黒木少尉の実話を基にした朗読劇「蒼天の向こうへ」です。演じたのは、サラムヤギキ(声優・俳優スクール)の皆さん3名。迫力いっばいに演じられる朗読劇を、生徒たちは最後まで真剣な表情で鑑賞していました。

【劇団員】 戦争はどうして起きたのか、なぜしなければならなかったのか、興味をもってください。

【生徒代表】 当時の人々の思いを想像していました。戦争について考えることは今後に関わると思ひます。

細野小 そばの種まき

4年生



細野地区営農組合(瀬戸山会長)とJAこばやしの協力で、細野保育園横の畑で、園児も参加して行われました。

子どもたちは地域の方に教えてもらいながら、手の甲を下に向け、種が指の間からこぼれ落ちるようにまき、15分ほどで終わりました。

そばは非常に生長が早く、2~5日で発芽します。細野小では10月中旬に花の観察会(スケッチ大会)を行い、11月20日頃に収穫の予定です。

【瀬戸山会長】 スケッチ大会では賞状も準備します。いい絵を描いてください。

【児童あいさつ】 初めてだったので、楽しかったし、うれしかったです。ありがとうございました。

永久津小 租税教室

6年生



講師は宮崎県 小林県税・総務事務所のお二人。講話とアニメを通して、税金の種類と役割、もし税金がなかったらなど、身近で基本的なことを学習しました。

6年生の租税教室は各小学校で行われており、税理士事務所や小林税務署、市の税務課、小林法人会などに協力をいただいています。

裏に続きます。

細野中 生涯学び続けるための学習



「なぜ学ぶのか」に続く2回目の授業です。担当は大塚先生。オンラインで行いました。授業の流れは…

① 予測困難な時代に必要な能力について話し合い、学級ごとに発表しました。② 「2007年生まれば107歳まで生きる確率が50%」という情報を受け、学ぶことの意味を考えました。③ 80歳で宮崎東高校通信制課程を卒業した女性を紹介したテレビ番組を視聴し、感想をまとめました。④ 全校生徒が10グループに分かれ、感想を共有しました。

【3年生の感想より】 ◆ 学ぶことは何歳からでもいいのだなと思った。 ◆ 今、学べることは当たり前じゃないんだと思いました。学ぶことの大切さや大変さについて、改めて深く考えることができました。 ◆ 何歳になっても、学ぼうとする意欲があれば勉強を続けてもいいことが分かりました。 ◆ 77歳で高校に入学するのは、勇気がいることだと思った。 ◆ 分かるまで質問しているのがすごいと思った。

教育フォーラムでの大工原さんの講演に通じる内容でした。VUCAの時代に関する授業の一例として紹介しました。

永久津中 手話講座

3年生



【講師】真方さん(左)と岡元さん
手話サークル「木の実会」

主な内容は、聞こえない人の生活・伝える方法・簡単な手話・指文字・自己紹介。今回の授業は実践的な内容が中心で、説明の後に個人やペアでの練習時間を長く取っていました。繰り返し練習

したおかげで、自己紹介も全員が上手にでき、「身に付いている」と感じました。

これまでに、実技を伴う活動を数多く参観していますが、説明が長くて実際にやってみる時間が短いこともあります。学校の規模にもよりますが、子どもたちが活動する場面をできるだけ増やす工夫が望まれます。

その為にも、活動の目的を明確にして、外部の指導者に学校の希望を伝えることが大切です。「毎回、このようにやっているのだから…」ではなく、各学校の特色ある取組に期待しています。

西小林小「鎌之手踊り」の練習

3年生



【歴史】明治2年(1869年)、鹿児島から西小林に移住した人々が、数少ない娯楽の一つとして、苦しい開拓の合間に鎌之手踊りを踊り継いできました。100周年記念式典でも踊られ、数年前までは、地区の敬老会などで子どもたちが踊ることもありましたが、今は途絶えています。

11月の創立150周年記念式典での復活をめざして、3年生が取組を始めました。

講師は50年前の式典でも踊った東成也さん。「えびの市の岡元や他の地域にも『鎌踊り』の名前で伝わっています」など、踊りの由来についてお話してくださいました。その後、8名の児童が昔の映像を見ながら踊ってみました。

「50年前に踊ったメンバーで生きているのは私だけです」と東さん。継承の難しさを感じながらも、これから練習に取り組む3年生に大きな期待を寄せていました。

東方小 ふれあい交流

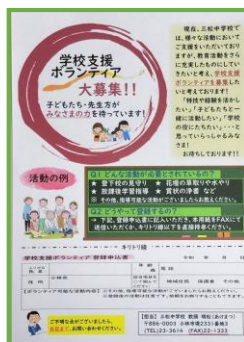
2年生

こすもす支援学校2年生との交流会。進行は東方小児童



定期的に行っている学年ごとの交流会です。20分間、自己紹介やふれあい遊び、歌を一緒に楽しみました。教室は、両校の子どもたちの元気な声と笑顔でいっぱい。体全体で楽しさを表現していました。感想の時間には「楽しかったです」「また一緒に遊びたいです」などの声がたくさん聞かれました。

三松中 ボランティアの募集



左は三松中が地域に配ったボランティア募集のチラシです。先生方の要望で、登下校の見守り、花壇の草取りや水やり、放課後学習指導、賞状の浄書などがあり、「その他、指導可能な活動がございましたらお教えてください」と書かれていました。各学校のボランティア募集の状況を調べています。